

新規事業採択時評価結果（平成19年度）

事業の概要

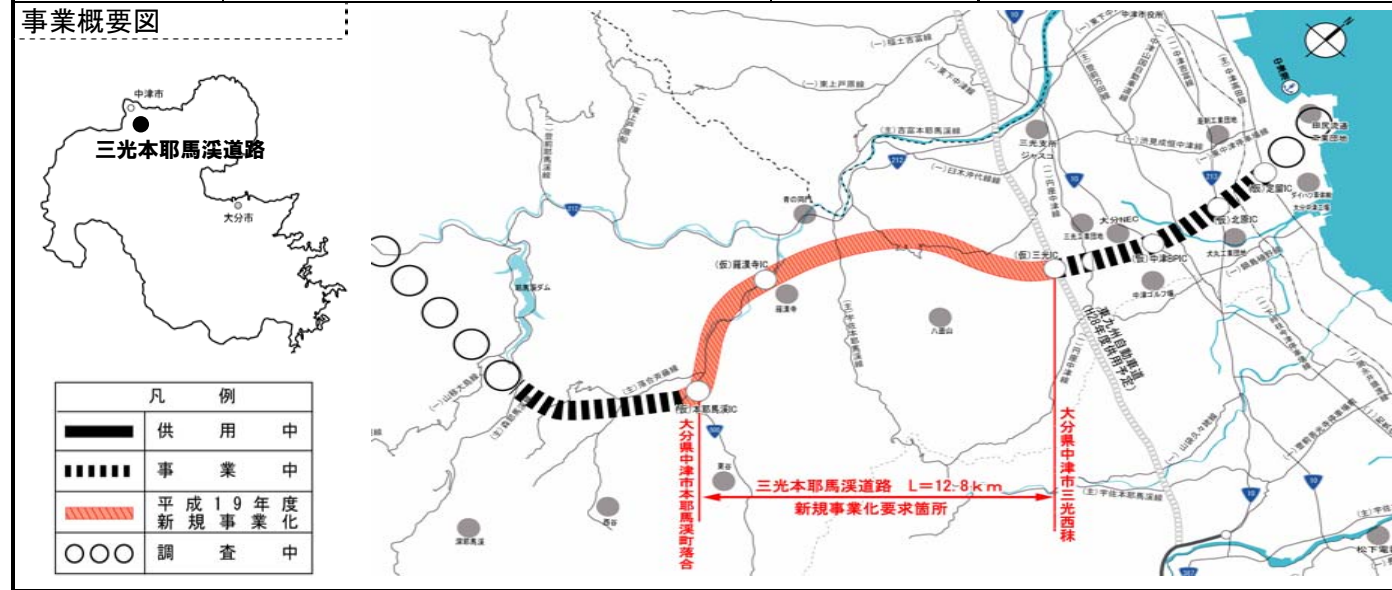
担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：木村 昌司

事業名	一般国道212号 三光本耶馬溪道路	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省九州地方整備局
起終点	自：大分県中津市三光西萩 至：大分県中津市本耶馬溪町落合	延長	12.8 km		

事業概要
中津日田道路は、東九州自動車道と九州横断自動車道とを連結する延長約60 kmの地域高規格道路である。三光本耶馬溪道路は、中津日田道路の一部区間を形成する延長約13 kmの道路であり、現在整備中である東九州自動車道や中津三光道路・本耶馬溪耶馬溪道路等と一体となって広域的なネットワークを形成し、物流の効率化や地域観光産業の振興などの地域活性化に資する自動車専用道路である。

事業の目的、必要性
一般国道212号は、重要港湾中津港と日田地域及び九州西岸地域とを結ぶ幹線道路であり、近年、北部九州への集積が著しい自動車関連産業を支えるとともに、年間170万人が訪れる耶馬溪・本耶馬溪地域の観光産業や沿線地域の生活を支える重要な路線となっているが、当該路線は、冬季の積雪や凍結によるチェーン規制の影響を受けやすく、台風や大雨等による災害も多発し、また、観光シーズンには各所で著しい交通渋滞が発生するなど安全性・信頼性・定時性が低下し幹線道路としての機能低下が大きな課題となっている。

全体事業費	426 億円	計画交通量	13,300～14,600 台/日
-------	--------	-------	-------------------



関係する地方公共団体等の意見
大分県知事並びに中津日田間地域高規格道路促進期成会（会長：中津市長）により、国土交通省本省、九州地方整備局に対し毎年3回程度の整備促進要望を受けている。

事業採択の前提条件
 便益が費用を上回っている
 円滑な事業執行の環境が整っている

費用対便益	全体事業費 B/C	1.7	総費用：352億円 （事業費：344億円 維持管理費：9億円）	総便益：605億円 （走行時間短縮便益：491億円 走行費用減少便益：82億円 交通事故減少便益：31億円）	基準年 平成18年
	感度分析の結果	交通量変動	B/C (交通量 -10%)	B/C (交通量 +10%)	
		事業費変動	B/C (事業費 +10%)	B/C (事業費 -10%)	
		事業期間変動	B/C (事業期間 +20%)	B/C (事業期間 -20%)	

事業の影響	評価項目	評価	根拠
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	○
事故対策		○	事故の減少が見込まれる。 【死傷事故率】 単路部 約67.3件/億台キロ（現況） [大分県平均比：約1.9倍] 交差点部 約251.7件/億台キロ（現況） [大分県平均比：約3.7倍]
歩行空間		—	注目すべき影響はない。
社会全体への影響	住民生活	◎	中津～日田間の所要時間が短縮され、地域活性化に寄与する。 （日田市から中津市へ5分の短縮：54分⇒49分）
	地域経済	◎	重要港湾中津港へのアクセス性向上及び定時性が確保されることにより物流の効率化が図られ産業活動の活性化に寄与する。 （日田IC～中津港へ22分の短縮：64分⇒42分）
	災害	◎	災害時の代替路が確保される。 （災害時の迂回解消で36分の短縮：85分⇒49分）
	環境	—	注目すべき影響はない。
	地域社会	◎	大分空港からのアクセス性が向上し、産業観光の促進による交流人口の拡大が期待される。 （大分空港～旧本耶馬溪町へ13分短縮：67分⇒54分。主要な観光地である耶馬溪・本耶馬溪地域 [年間観光入込客数=170万人] へのアクセス性が向上し、新たな観光ルートの形成が図られ、地域の活性化に大きく貢献する。）
事業実施環境		○	大分県知事並びに中津日田間地域高規格道路促進期成会から積極的な要望を受けており、地元の期待も大きい。 東九州自動車道（H28供用）との一体的な整備を行い、広域的な高速ネットワークを構築。

採択の理由
 費用対便益は、1.7と便益が費用を上回っており、事業採択の前提条件は確認できる。
 この道路整備により現況の交通混雑の緩和、道路の信頼性や走行性の改善を行うことで、物流輸送の効率化、沿線地域の社会文化、経済活動の活性化が図られ、その整備効果は高いものと判断される。
 以上より本事業を採択した。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。